

令和5年度行政事業レビューシート			（ 文部科学省 ）					
事業名	AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業			担当部局庁	研究振興局	作成責任者		
事業開始年度	令和4年度	事業終了 (予定)年度	令和8年度	担当課室	参事官(情報担当)付	学術基盤整備室長 藤澤 亘		
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日 閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2021(令和3年6月18日 閣議決定) 統合イノベーション戦略2021(令和3年6月18日 閣議決定) 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方(令和3年4月27日 統合イノベーション戦略推進会議) 等			
政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化			主要経費	科学技術振興費			
施策	8-3 オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-05.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	研究DXにより新たな科学的手法の発展や魅力的な研究環境の構築、生産性の向上を実現するために、様々な分野とも連携し、全国的な研究データ基盤を中心に研究データ利活用の仕組みを構築することで、オープンサイエンスとデータ駆動型研究等を促進する。							
現状・課題 (5行程度以内)	中核機関および4共同実施機関により形成される中核機関群において研究データ基盤高度化、プラットフォーム連携、融合・利用開拓、ルール・ガイドライン整備、人材育成の5チームを構成し、全国的な研究データ基盤および研究データエコシステムの整備・構築に向けて取り組みを実施している。 今後の課題としては、取り組みを進めていくうえで、機能開発や普及といった目標を具体的かつ計画的に進めていくため、小・中目標とするべき事項を検討し、それらを基準として進捗度合や成果を明確にすることがあげられる。							
事業概要 (5行程度以内)	オープンサイエンスを国際水準で促進し、我が国の研究力の飛躍的発展を図るため、分野・機関を越えてデータを共有・利活用するための全国的な研究データ基盤の構築・高度化・実装等を行う研究DXの中核機関群(※)を支援する。また、中核機関群では、全国的な研究データ基盤等の利用を促進するため、研究DXを進めるための環境整備として、データマネジメントに係る人材育成の方策の検討・実施、研究データの取扱いに関するルール・ガイドライン等の整備も行う。 ※ 上記取組を効果的に実施するため、研究データ基盤の構築・高度化・実装の中心的役割を担う機関(中核機関)が、複数の関係機関(共同実施機関)と有機的に連携した体制を構築する。							
事業概要URL	https://www.nii.ac.jp/creded/nii_ac_jp_creded.html							
実施方法	補助							
補助率等	中核機関群が実施する研究データエコシステムの構築事業について、当該経費を補助【補助率：100％】							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	-	-	991	1,048	1,148	
		補正予算(B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
	予備費等(E)	-	-	-	-			
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	991	1,048	1,148		
	執行額(G)			-	990			
	執行率(%) =(G)/(F)		-	-	100%			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		-	-	100%				
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		研究振興費			オープンアクセス推進に係る大学等の実態調査を行うとともにオープンアクセス推進に必要な機能等について調査を行い、研究データ基盤の高度化や新たなプラットフォームの検討を進めるために増額要望を行う。 「重要政策推進枠」:100百万円		
	(目)	人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金	1,047	-				
	(目)	委員等旅費	1	-				
	(目)	諸謝金	0	-				
	(目)	庁費	0	-				
	(目)	その他	▲ 0	1,148				
	計(A)		1,048	1,148				

活動内容① (アクティビティ)		分野・機関を越えてデータを共有・利活用するために、全国的な研究データ基盤に新たな機能等(※)を構築し、高度化及び実装等を実施 ※①データガバナンス機能②キュレーション機能③秘匿解析機能④人材育成基盤構築⑤コード付帯機能⑥データプロビナンス機能⑦セキュア蓄積機能 これについては、設計(1年目)、開発・評価(2～3年目)、実装・普及(4～5年目)という流れで作業を進めていく。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		計画された各機能が全国的な研究データ基盤に 実装され、全国的な研究データ基盤の利用者に 提供されること	新たに追加する7つの機能等 の実装	活動実績	件	－	－	6	－	－
				当初見込み	件	－	－	7	7	7
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	活動内容①のとおり、1年目の成果目標である各機能の設計の実施状況を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 4 年度	
		全国的な研究データ基盤に新たに追加 する7機能の設計	各機能の設計実施件数	成果実績	件	－	－	7	7	
				目標値	件	－	－	7	7	
				達成度	%	－	－	100	100	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	活動内容①のとおり、事業開始1年後から2年間の成果目標である、各機能の開発・評価の実施状況を、中期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		全国的な研究データ基盤に新たに追加 する7機能の開発・評価	各機能のうち、適切に開発が なされた旨の評価を受けた件 数	成果実績	件	－	－	－	－	
				目標値	件	－	－	－	7	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	活動内容①のとおり、事業開始3年後から2年間の成果目標である、各機能の実装を、長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度	
		全国的な研究データ基盤に新たに追加 する7機能の実装	各機能のうち、研究データ基 盤に実装された件数	成果実績	件	－	－	－	－	
				目標値	件	－	－	－	7	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

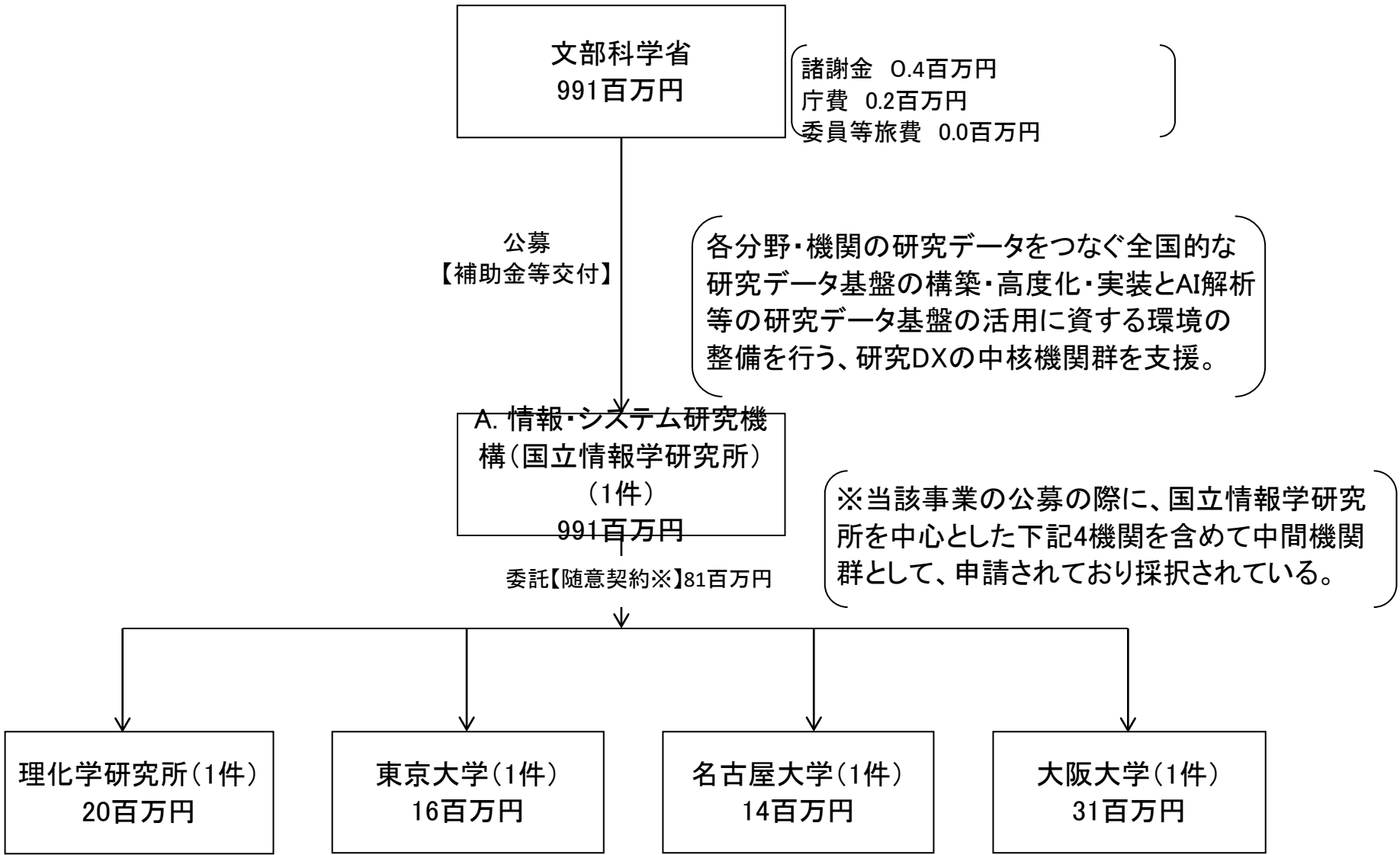
活動内容② (アクティビティ)		【研究データ基盤の構築・活用に係る環境整備[1]】 中核機関群のうち理化学研究所を中心に、当該研究所が運用するデータプラットフォームのデータを、全国的な研究データ基盤から検索できるようにする。 これについては、設計(1.5年間)、開発(1.5年間)、実装・普及(1.5年間)という流れで作業を進めていく。									
↓											
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		全国的な研究データ基盤から、対象となる共同実施機関が運用するリポジトリやデータプラットフォームの研究データのメタデータ検索が可能になること	全国的な研究データ基盤から、対象となる共同実施機関が運用するリポジトリやデータプラットフォームの研究データのメタデータ検索が可能になること	活動実績		-	-	-	-	-	
				当初見込み		-	-	-	-	-	
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	活動内容②のとおり、事業開始から1年6か月までの成果目標である、各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続に向けた設計を、短期アウトカムとして設定した。									
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度		
		各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続に向けた設計	-	成果実績	件	-	-	-	-		
				目標値	件	-	-	-	-		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/連携・接続機能の設計書									
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	活動内容②のとおり、事業開始1年6か月経過後から1年6か月間までの成果目標である、各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続に向けた開発を、中期アウトカムとして設定した。									
成果目標及び成果実績 ②-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度		
		各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続に向けた開発	-	成果実績	件	-	-	-	-		
				目標値	件	-	-	-	-		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/連携・接続機能のコード									
↓	成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	活動内容②のとおり、事業開始3年経過後から1年6か月間までの成果目標である、各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続に向けた実装を、長期アウトカムとして設定した。									
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度		
		各分野のリポジトリやデータプラットフォームとの連携・接続に向けたシステムの実装	-	成果実績		-	-	-	-		
				目標値		-	-	-	-		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/連携・接続の実装作業報告書									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由									
		数値化できず、定量的なアウトカムの設定が困難であるため、全国的な研究データ基盤から、対象となる共同実施機関が運用するリポジトリやデータプラットフォームの研究データのメタデータ検索が可能になることを、アウトカムとして設定した。									
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由									
		-									

活動内容③ (アクティビティ)		【研究データ基盤の構築・活用に係る環境整備[2]】 中核機関群のうち東京大学を中心に、分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケースを創出 これについては、準備検討(1年間)、コミュニティの構築(2年間)、コミュニティの拡大実施(2年間)という流れで作業を進めていく。								
↓										
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		全国的な研究データ基盤を用いたAI・データ駆動型研究のシーズ・ユースケースを創出、全国的な研究データ基盤の利用者が増加	全国的な研究データ基盤の利用機能数 (GakuninRDM利用機能数)	活動実績		-	-	-	-	-
				当初見込み		-	-	-	60	60
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	活動内容③のとおり、事業開始から1年間の成果目標である、分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケースの創出準備検討を、短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 4 年度	
		分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケースを創出の準備検討	-	成果実績		-	-	-	-	
				目標値		-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/準備検討が完了したことが把握できる打合せ記録								
↓	成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	活動内容③のとおり、事業開始1年後から2年間の成果目標である、分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケース創出に向けたコミュニティの構築を、中期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ③-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケースを創出に向けたコミュニティの構築	-	成果実績		-	-	-	-	
				目標値		-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/ユースケース創出事業提案書								
↓	成果目標③-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	活動内容③のとおり、事業開始3年後から2年間の成果目標である、分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケース創出に向けたコミュニティの拡大実施を、長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度	
		分野間でのデータ連携を前提とした複数のシーズ・ユースケースを創出に向けたコミュニティの拡大実施	-	成果実績		-	-	-	-	
				目標値	件	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/ユースケース結果報告								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
		数値化できず、定量的なアウトカムの設定が困難であるため、定性的ではあるが、各目標に係る報告等の内容を確認することを以てアウトカムとした。								
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容④ (アクティビティ)		【研究データ基盤の構築・活用に係る環境整備[3]】 中核機関群のうち名古屋大学を中心に、研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの整備 これについては、基礎設計(半年)、整備・公開(2年間)、普及(2年間)という流れで作業を進めていく。								
↓										
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		研究データ管理を行う際に留意すべき ルールやガイドラインを整備	-	活動実績		-	-	-	-	-
				当初見込み		-	-	-	-	-
↓	成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	活動内容④のとおり、事業開始から半年間の成果目標である、研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの整備の基礎設計を、短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ④-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 4 年度	
		研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの整備の基礎設計	-	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/基礎設計書類								
↓	成果目標④-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	活動内容④のとおり、事業開始半年後から2年間の成果目標である、研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの整備・公開を、中期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ④-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの整備・公開	全ての国立大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、ルールやガイドラインの整備率	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	50	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画								
↓	成果目標④-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	活動内容④のとおり、事業開始2年6か月後から2年間の成果目標である、研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの普及を、長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度	
		研究データの効果的・効率的な活用のためのルールやガイドラインの普及	全ての国立大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、ルールやガイドラインの整備率	成果実績	機関	-	-	-	-	
				目標値	機関	-	-	-	100	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由								
		数値化できず、定量的なアウトカムの設定が困難であるため、定性的ではあるが、各目標に係る記録等の内容を確認することを以てアウトカムとした。								
		アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容⑤ (アクティビティ)		【研究データ基盤の構築・活用に係る環境整備[4]】 中核機関群のうち大阪大学を中心に、データマネジメント人材のスキルセットの整理及び必要な教材等を整備 これについては、人材育成の環境整備(半年間)、大阪大学内における研究データ管理体制の構築(2年間)、国内研究機関への展開(2年間)という流れで作業を進めていく。								
↓										
活動目標及び活動実績 ⑤ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		データマネジメント人材の要件の整理 及び必要な教材等を整備	データマネジメント人材要件整理、必要な教材等を整備する 国内機関数	活動実績		-	-	-	-	-
				当初見込み		-	-	-	-	-
↓	成果目標⑤-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	活動内容⑤のとおり、事業開始から半年間の成果目標である、データマネジメント人材のスキルセットの整理及び必要な教材等の整備に関して人材育成の環境整備を、短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ⑤-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 4 年度	
		データマネジメント人材のスキルセット の整理及び必要な教材等の整備に関 して人材育成の環境を整備	-	成果実績		-	-	-	-	
				目標値		-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/環境整備を実施していることが把握できる、スキルセットや教材の打ち合わせ記録								
↓	成果目標⑤-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	活動内容⑤のとおり、事業開始半年後から2年間の成果目標である、データマネジメント人材のスキルセットの整理及び必要な教材等の整備に関して、大阪大学内における研究データ管理体制の構築を、中期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ⑤-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		データマネジメント人材のスキルセット の整理及び必要な教材等の整備に関 して、大阪大学内における研究データ 管理体制の構築	-	成果実績		-	-	-	-	
				目標値		-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画/管理体制図								
↓	成果目標⑤-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)	活動内容⑤のとおり、事業開始2年6か月後から2年間の成果目標である、データマネジメント人材のスキルセットの整理及び必要な教材等の整備に関して、国内研究機関への展開を、長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ⑤-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度	
		データマネジメント人材のスキルセット の整理及び必要な教材等の整備に関 して、国内研究機関への展開	全ての国立大学の展開	成果実績	機関	-	-	-	-	
				目標値	機関	-	-	-	86	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		NIIが公募申請時に当該事業の運営委員会に提出した年次計画								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ⑤について定性的なアウトカムを設定している理由								
		短期中期については数値化できず、定量的なアウトカムの設定が困難であるため、定性的ではあるが、各目標に係る記録等の内容を確認することを以てアウトカムとした。								
		アクティビティ⑤についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
設備備品費	NII RDCの機能高度化	258			
人件費	NII RDCの機能高度化	58			
事業実施費	中核機関群の事業実施費	445			
間接経費		228			
事務経費		1			
計		990	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

